

ぼーっと運転

アクセルとブレーキの踏み間違い

基本と初心を思い出して

一時不停止

道路標識の意味を思い出せない



前橋自動車教習所
指導部部长
岸 吉明さん

教習所での学びをもう一度

皆さん、教習所で教わったことを覚えていますか。教習所は全てのドライバーにとっての入り口です。これからドライバーになる人が事故を起こさないように、という思いで交通ルールや運転技術を指導しています。きっと皆さん、教習所に通っている時は一生懸命ルールを覚え、絶対に事故を起こさないぞ、という気持ちでいたはず。しかし、実際の道では一時停止をしかりしない車や、スピードを出し過ぎている車などをよく見

かけます。慣れや道を急ぐ気持ちが、そのような運転につながってしまっているのでしょう。交通事故は基本的なことができていなかった結果、起きてしまうものです。忘れがちなルールもあるかもしれませんが、ルールを守るのはドライバーとして当たり前のこと。教習所で習ったことをもう一度思い出してほしいです。そして、誰も大事な人がいると思います。その人のことを思い浮かべながら、優しい気持ちで運転してほしいですね。

事故を起こしていないから安全運転だとは言いきれませんが、事故の違反割合で半数以上を占めるのが安全運転義務違反。漫然、脇見運転、安全不確認など、気を抜いたら誰もがやってしまいがちなことが原因で、事故は起きています。ヒヤっとしたあの時、少しでもタイミングがずれていたら大惨事になっていたかもしれません。

誰もが教習所で習ったはずの一時停止、歩行者優先などのルール。慣れでおろそかになっていることがあります。周りがやっているからいいだろうという考えや経験に頼るのでは、いつ事故が起きてもおかしくありません。車は凶器。一瞬の不注意で自分が誰かの命を奪ってしまうかもしれません。ということを念頭に運転しましょう。また、年齢を重ねるとともに今までと同じような運転ができなくなったら要注意。自分や家族の運転は安全か、振り返ってみてください。

事故を防ぐために、全ての人が事故の当事者になる可能性があるという自覚を持つこと。そして、誰もが学んだはずの交通ルールを確実に守り、思いやりを持って車を運転することが大切です。



被害者も加害者も、その家族までも不幸になってしまう交通事故。誰も望んで事故を起こす人はいません。交通事故を防ぐために、私たちができることは、キーワードは「初心」と「思いやり」です。



交通指導員会 会長
野口 英雄さん

子どもに胸を張れる運転を

毎朝交差点に立ち子どもたちの登校を見守っていますが、危険な運転をする車や自転車をよく見かけます。スピードが速いまま曲がってきたり、黄色信号に飛び込んで来たり、子どもが危険にさらされることもあります。

私たちは地域の交通安全を守るために活動しています。しかし、一人一人の意識がなければ、私たちの活動だけで事故は防げません。交通事故は突然の出来事です。被害者も加害者もとてもつらい思いをするでしょう。そのどちらにもなりたくないし、家族や友人にもそんな思いはしてほしくありません。車や自転車を運転する皆さんには、子どもたちの見本となるような思いやりある運転をしてほしいです。